

I. 私たちが召会の回復について語るとき、私たちが意味するのは、当初、召会にはある状態があり、それが失われ、損なわれ、誤解されて、今やそれを当初の状態に戻す必要があるということです:

マタイ16:18 そこで私もあなたに言う。あなたはペテロである。私はこの岩の上に、私の召会を建てる。ハデス[陰府]の門も、それに勝つことはない。

A. 召会は何世紀もの歴史を通して墮落してきたので、神の当初の意図にしたがって回復される必要があります。エペソ1:22 また神は、万物をキリストの足の下に服従させ、そして彼を万物の上にかしらとして召会に与えられました。23 この召会は、キリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満です。3:9 それはまた、万物を創造された神の中に、各時代にわたって隠されてきた奥義のエコノミー[経綸]が何であるかを、すべての人を照らして明らかにするためであり、10 今、天上にある支配たちや権威たちに、神の多種多様な知恵を、召会を通して知らせるためであり、11 神が私たちの主キリスト・イエスの中で立てられた、永遠の定められた御旨にしたがっているものです。

B. 召会に関して、私たちのビジョンは、現在の状態や伝統的な実行にしたがって支配されるべきではなく、聖書の中で啓示されている神の当初の意図と標準にしたがって支配されるべきです。

エペソ3:21 神に、召会の中で、またキリスト・イエスの中で、栄光がすべての世代に至るまで、永遠にわたってありますように。アーメン。

C. 召会は、神の心の願いです:

新約は、召会がなければキリストは孤立しており、何も行なうことができないことを啓示しています。新約は特に召会が神の心の願いであることを啓示しています。この時代における神の願いは、召会を得ることです。

1. 召会は、神の召会であり、父なる神によって選ばれあらかじめ定められており、子なる神によって贖われており、霊なる神によって証印を押されています。

2. 召会は、生ける神の家、真理の柱また基礎であり、肉体において神を現します。

I テモテ3:15 それは、もし私が遅れた場合、神の家の中でどのように振る舞うべきかを、あなたに知ってもらうためです。神の家とは生ける神の召会であって、真理の柱また基礎です。16 そして確かに、偉大なのは敬虔の奥義です。この方は肉体において現され、霊において義とされ、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世の人の中で信じられ、栄光のうちに上げられた。

神は召会の中にホームを造って、そこで安息の場所を持つことを願っているだけでなく、召会の中でご自身を表現したいのです。神は彼の新約エコノミーを実行し、彼の願いを語り出し、召会に **1**

において彼の栄光を現したいのです。神であるすべて、彼が行なっているすべて、彼が獲得することを欲するすべては、彼の家としての召会において現されるべきです。

3. 召会は、キリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満であって、彼を表現します。
4. 召会は、キリストの妻であり、彼の配偶者です。
5. 召会は、新しい人です。

エペソ2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を、彼の肉体の中で廃棄されたからです。それは、彼がご自身の中で、二つのものを一人の新しい人へと創造して、平和をつくるためであり、

召会がキリストのからだであることの強調点は命でしたが、召会が宇宙的な新しい人であることの強調点は私たちのパーソンとしてのキリストです。からだのために、私たちはキリストが私たちの命であることを必要としますが、新しい人のために、私たちはキリストが私たちのパーソンであることを必要とします。

6. 召会は、宇宙的には、唯一の宇宙召会として存在しますが、地方的には、多くの地方召会として表現されます。

II. 召会の回復は、イスラエルの子たちが捕囚から帰還することによって予表されています:

- A. イスラエルの子たちの後期の歴史によって予表されているように、回復とは、バビロン、すなわち捕囚と分裂との立場から離れることです。召会の回復とは、バビロンによって表徴される捕囚と分裂との立場から帰還することを含みます。

エズラ1:11 金と銀の器は全部で五千四百であった。セシバザルは、バビロンからエルサレムに連れられ上った捕囚の者たちと共に、これらの物をみな携え上った(brought up)。

イスラエルの子たちが回復されるとは、彼らがバビロンからエルサレムへ連れ戻されることを意味しました。消極面で、回復されるとは、バビロンから連れ出されることを意味します。積極面で、それはエルサレムへともたらされることを意味します。

- B. イスラエルの子たちの回復は、バビロンから離れることだけではなく、エルサレム、すなわち、神の定められた唯一の立場へと戻ることもありました。エルサレムが、主の選んだ場所でした。

申12:5 エホバ・あなたがたの神が、あなたがたの全部族の中から選んで彼の御名を置かれる場所、すなわち彼の住まいを尋ね求めて、そこへ行かなければならない。

エルサレムは主が選ばれた場所でした。ですから、エルサレムは神の民が神を礼拝するための中心であって、この唯一の中心は神の民の一致を守りました。そのような中心がなければ、イスラエル **2**

の子たちは良き地に入ったとしても、分裂したでしょう。

- C. バビロンからエルサレムへと戻って行った者たちは、バビロンへと奪い取られていた神の宮のすべての器を携えて行きました。これらの器は、銀のものと金のものであり、キリストとキリストの豊富とに対する経験を表徴します。エズラ1:5 そこで、ユダとベニヤミンの父祖の家のかしらたちと祭司たちとレビ人は起き上がり(rose up)、神が霊を奮い立たせた(stirred up)者たちもみな上って行って(go up)、エルサレムにあるエホバの家を建てようとした。6 彼らの周りの人々はみな、銀の器、金、財物、また家畜と尊い物をもって、そのほか進んでささげるすべての物をもって、彼らの手を強めた。7 また、クロス王は、ネブカデネザルがエルサレムから持ち出して、自分の神々の家に置いていたエホバの家の器を持ち出した。

今日でさえ、ある親愛なるクリスチャンたちはキリストの真の経験を持っているにもかかわらず、バビロンにいます。これは彼らが補囚の地で、また偶像の地でキリストの経験を持つことを意味します。その経験は正しいのですが、その場所は間違っています。なぜなら、器は正しいのですが、それらは偶像の宮にある神の宮の器なのです。ですから、銀や金のすべての器はエルサレムに戻されなければならないのです。

- D. 召会の回復は、神の民がバビロンから帰還した後に、エルサレムに神の宮、すなわち神の家を再建したことによっても予表されます。こういうわけで、回復とは、神の宮の器を携えてエルサレムへと戻るだけでなく、神の宮を再建することでもあります。

エズラ1:3 あなたがたのうち、すべて彼の民はだれでも、彼の神が彼と共におられるように。その者はユダにあるエルサレムに上って行き、エホバ・イスラエルの神の家を建てる(build)ようにせよ。彼はエルサレムにおられる神である。

- E. 召会の回復は、エルサレムの都を再建することによって予表されます。

Ⅲ. 「回復」という言葉は新約の中で用いられていませんが、召会の回復は新約の中で啓示されています:

- A. 私たちは、分裂を引き起こすこと(分派や宗派)から回復される必要があります。

テトス3:10 分裂を引き起こす者は、一、二度訓戒した後、退けなさい。

- B. 召会の回復のために必要とされることは、私たちが自分自身を清めて、大きな家(背教のキリスト教世界)の中にある卑しいことへと用いられる器から離れることです。Ⅱテモテ2:20 ところが、大きな家には金や銀の器だけではなく、木や土の器もあり、そしてあるものは尊いことに、あるものは卑しいことに用いられます。21 ですから、だれでも自分自身をこれらのものから清めるなら、その人は尊いことに用いられる器となり、聖別され、主人に役立ち、あらゆる良いわざに間に合う者となるのです。 3

C. 私たちは、キリストの教えの中にとどまらない者たちと接触すべきではありません。この教えとは、キリストの神性と、神聖な受胎によって肉体と成ったこととに関するものです。

Ⅱヨハネ9 すべてキリストの教えを踏み越えて、その中にとどまらない者は、神を持っていません。この教えの中にとどまっている者は、御父と御子の両方を持っています。10 もしあなたがたの所に来る人が、この教えを持って来ないなら、彼を家に迎え入れてはいけません。彼に「喜ばなさい！」と言ってもいいません。

D. 私たちは主の言葉に従って、宗教の大いなるバビロンから出て来る必要があります。

啓18:4 私はまた、天からもう一つの声がこう言うのを聞いた、「私の民よ、彼女から出よ。それは、あなたがたが彼女の罪に加わらないためであり、また、あなたがたが彼女の災害を被らないためである。

IV. 私たちは、召会が回復されるとは何を意味するかを見る必要があります：

A. 召会の回復のために、私たちは回復されて、分裂と背教との立場から離れる必要があります、また、三一の神のパーソンと、キリストのパーソンと働きとに関する真理から逸脱することから離れる必要があります：

1. 私たちは、様態論と三神論という異端を拒絶して、神の言にしたがって三一の神についての純粋な啓示をしっかりと守らなければなりません。三一の神のパーソンに関する真理には、二つの面があります。すなわち、一の面と三の面があります。なぜなら、唯一の神は、三一であり、三であり一であり、父、子、霊であるからです。

マタイ28:19 だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして、

Ⅱコリント13:14 主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように。

様態論は、三であり一である面の極端です。もちろん、三であり一である面に対して聖書における根拠がありますが、様態論は極端に走り、聖書の範囲を越えて、一であり三である面を無視するだけでなく、無効にさえしました。様態論は、三の面に関して聖書の範囲を越えてしまいました。このゆえに、それは一の極端についての異端です。三神論は、正反対の極端です。三神論は、三の面を強調し、一の面を無視します。それには聖書の根拠があります。なぜなら父、子、霊は確かに三であるからです。しかし、三神論もまた様態論のように、聖書の範囲を越え、異端となってしまっています。ですから、様態論と三神論はいずれも両極端であり、異端です。

2. 私たちは、キリストのパーソンに関するすべての異端的な教えから回復されて、肉体において現された神であるイエス・キリストが、神全体であり、完全な人であり、またすべてを含む方として、あらゆる積極的な事物の実際であることを、告白する必要があります。

Iヨハネ4:2 このことにおいて、あなたがたは神の霊を知るのです。すなわち、すべてイエス・キリストが肉体において来られたことを告白する霊は、神から出ています。3 またすべてイエスを告白しない霊は、神から出ていません。それは反キリストの者の霊です。それについてあなたがたは、それが来ると聞いていましたが、今やそれは、すでに世にきています。14 そして私たちは、御父が御子を世の人の救い主として遣わされたのを見て、その証しをします。15 だれでも、イエスは神の御子であると告白するなら、神は彼の中に住んでおられ、また彼は神の中に住んでいます。

イエス・キリストが肉体において来たことを否むことは、彼の神聖な受胎、彼の肉体と成ること、彼の誕生、彼の人性、彼の人の生活、また彼の贖いを否むことです。新約は、キリストの贖いが彼の人の体において、また彼の血を流すことによって達成されたことを力強く、明らかに示しています。

B. 召会の回復のために私たちは、キリストのからだの唯一で純粋な立場とその真理へと戻される必要があります：

1. 私たちは、新約の信仰と神のエコノミーとに関する真理へと戻される必要があります。

Iテモテ1:3 …異なる事を教えたり、4 作り話や果てしのない系図に、心をとめたりすることがないように命じなさい。そのようなものは、信仰の中にある神のエコノミー[経綸]ではなく、むしろ論議を引き起こすだけです。

「神のエコノミー」とは、神の家庭の行政であって、それはキリストの中で神ご自身を神の選ばれた民の中へと分与して、神が家、家庭を得てご自身を表現することです。

2. 私たちは、キリストのパーソンと働きとに関する真理へと戻される必要があります。

キリストのパーソンと働きに関して、キリストは神が肉体となった神・人であり、彼は神性と人性の両方であると、私たちは宣べ伝えなければなりません。私たちはまた彼の贖いの死を宣べ伝えなければなりません。彼の贖いの働きにおいて、彼は私たちの罪のため、また私たち罪人のために十字架上で死なれました。それから彼は復活させられました。それによって彼はご自身を神聖な命として私たちの中へと分け与えることができました。

3. 召会の回復のために必要とされることは、私たちが、三一の神のパーソンと分与とに関する真理へと回復されることです。

IIコリント13:14 主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように。

主のあわれみによって、私たちは照らされて、神の新約エコノミーには神聖な三一のパーソンがあって、それはご自身を彼の選ばれた民の中へと分与して彼らの命、命の供給、すべてとならせるためであることを見ました。

4. 召会の回復は、キリストのからだとしての召会、すなわち団体のキリストを回復することを含みます：
- キリストのからだは、有機体であり、再生されて神の命を持っているすべての信者から構成されており、かしらを表現します。
 - キリストのからだは、実は団体のキリストです。

Ⅰコリント12:12 それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、キリストも同様だからです。

5. 召会の宇宙的な面と地方的な面とに関する真理もまた、回復される必要があります：

- 宇宙的な面では、召会は唯一無二です。
- 地方的な面では、召会は多くの地方において、多くの地方召会として表現されます。

マタイ18:17 もし彼が彼らに聞き従うことを拒むなら、召会に告げなさい。もし彼が召会に聞き従うことをも拒むなら、彼を異邦人や取税人のように扱いなさい。

Ⅰコリント1:2 コリントに在る神の召会へ、すなわち、キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち、それと共に、私たちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ。彼は彼らのもの、また私たちのものです。

- C. 召会の回復において私たちは、キリストのからだ、神の宮、神の家を建造しています：

エペソ4:16 この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。

- これは、エズラのリーダーシップの下で宮を再建することによって予表されました。
- 今日私たちは、神の宮としての召会を再建しています。エペソ2:21 その方の中で、建物全体が共に組み合わされ、主の中にある聖なる宮へと成長していき、22 その方の中で、あなたがたもまた共に建造されて、霊の中にある神の住まいへと至るのです。
- 敵が召会に対して行なうすべての破壊は、復活の中で主のからだを拡大する機会を主に与えます。
サタンは決して主イエスを打ち破ることはできません。ハデスの門は決して建造された召会に勝つことはできません。召会はなおも前進し、なおも成長しています。敵は最善を尽くしてそれを破壊しようとするかもしれませんが、私たちは勝利を見るでしょう。私たちは、主イエスご自身だけが勝つのではなく、召会、彼のからだ、宮も勝つことを見ます。

- D. 召会の回復は、王国の生活を建て上げることを含みます。召会生活の実際が、王国です：ローマ12:5 私たちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです。 6

ローマ14:17 なぜなら、神の王国は食べ飲みすることではなく、義と平和と聖霊の中の喜びとであるからです。

1. ローマ第14章17節は啓示していますが、神の王国は召会の生活です。王国は、今日の召会生活です。
2. 召会の生活としての神の王国は、義、平和、聖霊の中の喜びです。
3. そのような生活を持つことは、王国の生活を建て上げることです。それは、エルサレムの都を再建することによって、ネヘミヤ記の中で予表されているようにです。
4. 召会の回復において私たちは、神の家また神の都としての召会を建造しています。

経験(ビジネス・ライフ編):

- ① 宮の再建のための五つのUP: 働いている兄弟姉妹は、エズラ記1章にある五つのUP(**Stirred up! Rise up! Go up! Bring up! Build up!**)を経験すべきです。エズラ記1章の五つのUPは、宮の再建のためでした。今日私たちは召会の回復のためにここにいるのです。
- ② まず霊が奮い立つ(Stirred up): 神はまず、ペルシャのクロス王と、イスラエルの民のリーダーたちの霊を奮い立たせました。あなたは毎朝、御言葉を祈り読みして、神によってあなたの霊が奮い立たせられなければなりません。祈り読みの時、あなたは霊の中で、御言葉の中のその霊に触れて、あなたの霊が掻き立てられる良い開始を持ってください。
- ③ 立ち上がる(Rise up): 霊が奮い立った後、あなたは立ち上がらなければなりません。立ち上がるのは、事を始め、戦いを始めるためです。エペソ6:10 最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。11 神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです。ビジネス・ライフは戦いの生活です。会社に行くと、様々な問題が次から次に起こります。あなたは必ず職場に行く前に主の中でしっかりと立ち、戦う準備を整えなければなりません。
- ④ 上って行く(Go up): 第三番目に、あなたは上って行きます。会社での残業を制限し、会社の勤めから天の務めに上って行き、祈りの集会、家庭集会、福音の宣べ伝え、奉仕などに参加します。すべての時間を会社にささげてしまうのは容易なことですが、そうであれば宮の再建、召会の回復のために正常な召会生活を実行することはできません。主と共に、主の中で、主のために、立ち上がり、集会に上って行きましょう。
- ⑤ 携え上がる(Bring up): あなたは上って行くときに、空手であってははいけません。手にキリストの経験(金と銀の器によって予表される)を携えて行くべきです。そのために、職場のさまざまな状況の中でキリストを豊かに経験し、その経験を携えて集会に行ってください。
- ⑥ 建て上げる(Build up): これら四つのUPは建造(**building up**)のためです。あなたのビジネス・ライフが究極的に建造のためであるなら、主はあなたのビジネス・ライフを大いに祝福するでしょう。アーメン！

- 1 捕囚にあるバビロンにて、主、靈をふるい立たす！
分散し、いちうしなうも、主、靈をふるい立たす！
ふるい立とう！主、靈をふるい立たす！
ふるい立とう！主、靈をふるい立たす！
- 2 バビロンから、分れつから、われらは起き上がる！
ごういつのたち場へと、われらは起き上がる！
起き上がれ！われらは起き上がる！
起き上がれ！われらは起き上がる！
- 3 バビロンから、エルサレムへ、われらはのぼって行く。
われら、いちまもるため、われらはのぼって行く。
のぼって行け、かみはともにいます。
のぼって行け、かみはともにいます。
- 4 キリストで満たされた うつわをたずさえよ。
かみ、命じた召かいへと うつわをたずさえよ。
たずさえのぼれ、うつわを持って。
たずさえのぼれ、うつわを持って。
- 5 えらばれたエルサレムで、主のみや建て上げる！
聖徒たちといちのなか、主のみや建て上げる！
建て上げ、主のみや建て上げる！
建て上げ、主のみや建て上げる！

1. Down in Babylon, in captivity,
Oh, the Lord has stirred our spirit up!
Scattered everywhere, without unity,
Oh, the Lord has stirred our spirit up!
Stirred up! Stirred up!
Oh, the Lord has stirred our spirit up!
2. Up from Babylon, where the sects abound,
From division we must all rise up!
Brothers, Babylon's not the proper ground;
From division we must all rise up!
Rise up! Rise up!
From division we must all rise up!
3. To Jerusalem, from captivity,
God is with us, let us all go up!
To the one unique ground of unity,
God is with us, let us all go up!
Go up! Go up!
God is with us, let us all go up!
4. Platter full of Christ, bowls with Spirit filled -
All the vessels of the Lord bring up!
Bring them to the church as the Lord has willed -
All the vessels of the Lord bring up!
Bring up! Bring up!
All the vessels of the Lord bring up!
5. In Jerusalem, chosen of the Lord,
Now the temple of the Lord build up!
Serve with all the saints, share in one accord,
Now the temple of the Lord build up!
Build up! Build up!
Now the temple of the Lord build up!